

大関 栃光が教えてくれたこと

人吉市立人吉東小学校 5年 春木 碧

栃光は、どうして熊本で100年ぶりの大関になれたのだろう。ぼくは、まわりの人へのやさしさ、家族への思い、けいこを1日も休まない心の強さがあったからだと思う。

まわりの人へのやさしさ。やさしさがあれば、たとえ勝っていても他の人のことも考えることができ、自分はまだまだだなあと思えるからだ。

次に家族への思い。7人兄弟の長男で、お父さんのこう木担ぎを手伝って、家族の大切な一員だった。すもう取りになることをいく日もなやむくらい家族のことを思っている。最後は、大反対する父に許してもらおう。そんなことがあったから、どんなにつらくても、「天草の家族」のためにもけいこを休まない強い気持ちができただと思う。

そして、けいこを休まない心の強さ。小学生のころからのやさしさと、家族への思いを大切にしていたから、けいこを休まない強さが生まれたと思う。それも大事な時期に病気にかかり負けが多くなっても休まない強さ。この強さにとてもおどろいた。しかも、2年もかけて病気に勝って大関になったので、すごいと思った。

ぼくは今、水泳をやっている。九州大会に出場できるように毎日がんばっている。多い時には、1日に6500メートル以上泳ぐときもある。同じ目標でがんばっているライバルもいるが、そのライバルは九州大会に出場することが決まった。すごいなあという気持ちとくやしいという気持ちがある。どうしたら九州大会に近づけるのだろう。

栃光の話がぼくに教えてくれた。まわりへのやさしさが大切なこと。家族もいっしょに応えていること。そして栃光のように練習を休まない心の強さを持つこと。目標に向かって栃光のように努力すると、その分だけ結果は近づいてくること。これからも、ぼくも努力をやめずにがんばっていこうと思う。そして、水泳以外でもがんばれる人になりたい。

また、そこまでいくのにはしんらいがないといけないから、学校生活から学校以外まで人助けなどを自分のために、そして人のためにやりながら、栃光のようにやさしさと強い心を育てていき、しょう来、努力をどんなときでもつづけられるようになりたい。そして、目指している努力ができる水泳選手になりたい。